

わがまち
リレー
ルポ

学園都市の風 中

防災・減災の戦力

「慌てない 地震が起きたら 避難しよう」。学生が読み札を読み上げると、児童が絵札を取り合い歓声を上げる。遊んでいるのは独自に作った「防災カルタ」。先月下旬、野々市市の下林会館で開かれた夏休み防災教室の「コマである。講師を務めたのは、金沢工大の防災・減災プロジェクト「SORA(ソラ)」に携わる2人の学生だ。

「小学生相手なので、難しくない、楽しい企画を考えてきました」。リーダーの沢田直飛さん(21)「工学部3年」がやりがい語る。下林地区での教室は昨年続いて2回目で、防災訓練などで知り合った防災士から声が掛かった。

カードゲームで学ぶメンバーは週2回、学内で集まって課題に取り組んでいる。現在は、9月の野々市市防災訓練や学童保育施設の防災教室など、複数の事業の準備が並行して進む。

防災教室で使う啓発グッズは毎年のように新しいものを開発してきた。今年に入って作成した新たなカードゲームは、地震や大雨などの各種災害、土のうや食料など防災用品が描かれ、参加者がカードを組み合わせて対処法を考える趣向となっている。

学生と地域住民は夜回りや防災訓練などで連携するが、その交流は防災の枠を超えて広がりを見せている。周辺町内会のバーベキュー大会では、学生は「お

啓発グッズを自主開発



住民と顔見える関係に



客さん」としてではなく、準備にも携わるようになった。秋祭りの「野菜みこし」巡行にも加わり、卒業した後も縁が続く学生もいる。

プロジェクト事業を話し合う学生 金沢工大 扇が丘町内会では関係が深まり、学生と町内会役員が懇親会を年に数回、開いている。就職などの悩みを相談したいと学生側から歩み寄ったそう。

市川さんは「顔も知らない人といきなり仲良くするのは厳しい。関係が希薄な人との付き合いが大事になる」と実感を込める。将来は防災訓練を運営する側になりたいと考えているらしい。

夏休みの児童に防災の心構えを教える学生 野々市市の下林会館

野々市市は自然災害が少ないといわれるが、能登半島地震を契機に市民の防災意識は高まった。昨年夏には豪雨による浸水被害も発生している。市民の輪に積極的に飛び込み、防災・減災に寄与する学生たちの姿が頼もしい。

(野々市支局・水上良)